

教科	工業	科目名	建築実習	単位数	3
学科	建築	学年	3 学年	履修区分	必修
使用教科書	建築実習1・2(実教出版)				
副教材など	各種補助プリント				

1. 科目の目的

- ① 建築に関する基本的な技術を、実際の作業を通して総合的に習得することが出来ることを目指す。
- ② 技術革新に主体的に対応できる能力と態度を身につけることを目指す。

2. 授業の内容と進め方

座学で学習した事項と関連付けを行い、各実習科目と連携をとり建築物の完成工程・流れ・各種工法等を理解させる。また、各種資格試験の取得にもつながる技術・知識も習得させる。

3. 学習する上での留意点

安全な作業を行うために、工具・機械の正しい使用方法の知識を理解し実行することが大事ある。又、技術の習得も必要であるが、整理・整頓等の環境整備等の指導も行う。

4. 課題等について

各課題ごとに、学習到達目標に達しない生徒は、補習を実施します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	各種試験方法や、工具・機械の使用方法を理解し、知識を身につけている。また、各実習で提示された課題に取り組む技能を身につけている。
思考・判断・表現	建築物の構造を分析でき、実物に基づき合理的に判断でき、その過程から結果までを的確に表現できる。
主体的に学習に取り組む態度	各実習に主体的に取り組む、知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりするために、学習に関心を持ち学習状況を把握し、学習の進め方に試行錯誤しながら意欲的に学ぼうとしているか。

6. 評価の方法

- (1)出席状況。
- (2)授業の取り組み状況。
- (3)レポート。
- (4)各実習の課題作品。
- (5)生徒の自己評価内容等により総合的に判断する。

《指導計画》 科目名 建築実習

3 学年

3 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等				
一 学 期	4	4グループによる各パートローテーション実習						
	5	(1)鉄筋・鉄骨実習 ア 基礎配筋 イ 柱配筋 ウ 梁配筋 エ 現寸図 オ 型どり・けがき カ 加工・組み立て	○建築物の各工事別作業について、その順序・方法や、建築物が造られていく過程を総合的、体験的に学習し、実際に活用できる。	レポート提出 課題提出 出席、態度等により総合的に評価する。				
		6	(2)工事測量・基礎工事实習 ア セオドライトの据付 イ 水盛りやり方 ウ 地縄張り エ トータルステーションの据付 オ 水平角と水平距離の測定	○建築物を施工する上で必要な測量知識・方法を理解し、実際に活用できる。	レポート提出 課題提出 出席、態度等により総合的に評価する。			
			7	(3)CAD・積算実習 ア JWWのコマンド解説(1) イ " (2) ウ JWWによる図面作成(総合仮設計画図) エ JWWによる図面作成(仮設図(枠組足場)) オ JWWによる図面作成(RC造基礎施工図) カ JWWによる図面作成(RC造1階躯体図)	○建築物を設計する上で必要な製図を、CADソフトを使って作成する技術を習得させる。JWWCADの作図機能及び操作方法を習得させて、パソコンによる製図を理解させる。	レポート提出 課題提出 出席、態度等により総合的に評価する。		
				10	(4)型枠工事实習 ア 型枠工作図の作成図 イ 型枠の加工と組立	○作成されたコンクリート躯体図や型枠支保工計画図をもとに型枠を作成し組立てる技術を習得させる。実体験をもとに型枠工事の作業順序を理解させる。	レポート提出 課題提出 出席、態度等により総合的に評価する。	
					11			
						12		
三 学 期	1							
	2							
	3							